Careers 進路・就職

卒業生の主な進学・就職先

サービス

全日本空輸（ANA）
日本航空（JAL）
JR 東海
JR 西日本
JTB 西日本
アクセンチュア
デロイトトーマツコンサルティング
楽天

商社・流通

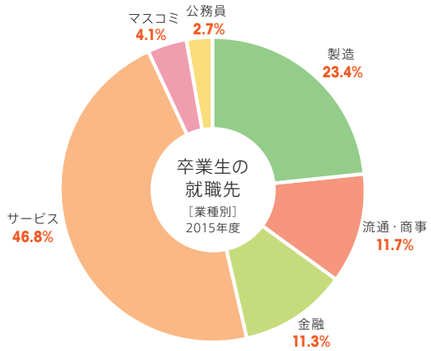
三菱商事
三井物産
住友商事
伊藤忠商事
丸紅
豊田通商
双日

製造

IHI
アサヒビール
味の素
京セラ
キヤノン
麒麟麦酒
サントリーホールディングス
島津製作所
ダイキン工業
デンソー
トヨタ自動車
パナソニック
富士通
任天堂
三菱重工業
日本アイ・ビー・エム
P&G
資生堂

マスコミ・出版

日本放送協会（NHK）
読売テレビ放送
朝日新聞社
読売新聞大阪本社
電通
博報堂
講談社
ベネッセコーポレーション
ブルームバーグ LP
リクルート
ドワンゴ



独立行政法人

国際交流基金
日本貿易振興機構（JETRO）
国際協力機構（JICA）

公務員

国家公務員（外務省、文部科学省、厚生労働省等）
地方公務員（京都市、神戸市、兵庫県等）
教員（神奈川県等）

金融

三菱東京 UFJ 銀行
三井住友銀行
みずほフィナンシャルグループ
東京海上日動火災保険
野村證券

大学院進学

立命館大学大学院 国際関係研究科等
東京大学大学院
京都大学大学院
大阪大学大学院
American University, School of International Service
Johns Hopkins University
Sciences Po, Paris School of International Affairs
International Institute of Social Studies in The Hague,
Erasmus University Rotterdam
Lancaster University
London School of Economics (LSE)
Royal Holloway, University of London
University College London (UCL)
University of British Columbia (UBC)

卒業生からのメッセージ

清水 雄太さん

国際関係学専攻
2015 年卒業

キヤノン（株）

私の大学生活の中で思い出深いのは、基礎演習や専門演習といった少人数授業です。これらの授業では、国際関係に関する様々なトピックについて、プレゼンテーションやディスカッションを行います。1つの事象に対して、政治、経済、文化といった複数の視点から考察し、発表することが求められるので、国際ビジネスを行う上で必要不可欠な論理的思考力や複眼的考察力が徹底して鍛えられました。このように、国際関係学部での学びは4年間に留まりません。「世界を相手に勝負する」素養を身に付ける環境が、国際関係学部には整っています。皆さんの夢を叶える道の途上に国際関係学部での学びを位置づけ、より大きな夢を掴んで欲しいと心から願っています。

榊原　順さん

グローバル・スタディーズ専攻
2015 年卒業

アクセンチュア（株）

熱心な指導をしてくださる先生方に励まされ、異なるバックグラウンドを持つ友達と勉強に励み、充実した学生生活を送りました。3回生の時には、企業における社会学や人材教育学を専門的に学ぶために、コペンハーゲン大学への交換留学も経験しました。世界を舞台として自分の成長を促進する選択肢や機会に恵まれている事、ダイバーシティにあふれた豊かな学習環境は、国際関係学部の1番とも言える魅力だと思います。現在は外資系のコンサルタント会社にて、語学力や海外経験を活かしてお客様が抱える課題の解決のサポートをしています。国際関係学部での学びを通し、どこにいっても通用する人間力を身につけられた事は今でも私の誇りです。

福島 悠太さん

国際関係学専攻
2016 年卒業

丸紅（株）

「世界を舞台に活躍したい」と考え、国際関係学部に進学しました。大学生活で最も印象深いのは、アメリカのニューメキシコ大学への交換留学です。留学先では、英語とスペイン語でディスカッションやグループワークがある授業を履修し、意思疎通に大変苦労しました。当初はうまく自分の考えを伝えられず、もどかしい日々が続きましたが、少しずつ乗り越えていったことで、「誰を相手にしても自分の考えを伝える」自信を深めることが出来ました。こうした経験から海外で活躍したいという思いはさらに高まり、就職先は総合商社を選びました。現在は金属部門の経理に所属し、計数の面から商社のビジネスを支えています。将来、アジアや南米に海外駐在をする際は、大学時代に身に着けた国際感覚を大いに活かすことが出来ると確信しています。

国際関係学部校友会 ▶ 7,500名の卒業生が現役生を支えます。

国際関係学部・研究科は創設以来20年以上の間、これまでに国際的視野と高い語学力をもった約7,500名の卒業生を送り出してきました。その中の多くの先輩が、外交官、国際機関職員、JICA等の国際援助機関、NGO等はもちろん、外資系を含めた多彩な業種で、国境を超えたグローバル・リーダーとして現在も活躍中です。国際関係学部・国際関係研究科の卒業生ネットワーク「国際関係学部校友会」が国際関係学部生をサポートします。

立命館大学
国際関係学部
RITSUMEIKAN UNIVERSITY

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL: 075-465-1211　E-mail: irpost01@st.ritsumei.ac.jp

先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど最新の情報はこちら
http://www.ritsumei.ac.jp/ir/

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

立命館大学

国際関係学部

College of
INTERNATIONAL RELATIONS
Ritsumeikan University

Governance and Peace Program
Development and Sustainability Program
Culture and Society Program

AY 2017

Introduction

国際関係学とは？

国際関係学（International Relations）とは、一体いかなる学問なのでしょうか。「国際」とは、もともとは国と国とが出会うところを意味します。英語のInternational という語も、国（nation）と国（nation）の間（inter）のという意味です。しかしながら、現在、国際関係が、「国と国の間の関係」にとどまらないことは言うまでもありません。複数の国から構成される国際連合のような国際機構や、非政府組織（NGO）、多国籍企業、時には一人の個人さえもが国際関係に影響をあたえています。国際関係学は、「国と国の間の関係」にとどまらない、世界の諸現象・諸問題を対象にした学問であるということが出来ます。第二次世界大戦、冷戦、グローバリゼーションの進展などにより、国際関係の複雑さは増す一方です。また、そうした国際関係が私たち一人ひとりの生活に与えるインパクトも大きくなり続けています。

ウナギと国際関係

と、言われても、まだ「国際関係」は遠い世界の出来事のように感じるかもしれません。国際関係がみなさんの生活に与える影響を考えるため、ウナギを例にみてみましょう。ウナギと国際関係がどう関係があるの、と疑問に思うかもしれません。ウナギはとても栄養価が高いこともあり、日本では夏バテ防止のために「土用の丑の日」に食べる習慣があったりします。このウナギ、最近値段がとても高くなってきたことに気がついたでしょうか？　ウナギの稚魚、シラスウナギの不漁が続いていることが、ウナギ価格高騰の直接的な原因です。実は、ウナギの生態はまだ良くわかっていないところが多く、養殖もののウナギも、シラスウナギを捕獲して、大きく育てて出荷しているのです。

日本近海のシラスウナギをとり養殖を続けてきた結果、その数は激減してしまいました。そこで、日本は多くのウナギを中国などから輸入するようになりました。このウナギ、中国がヨーロッパウナギの稚魚を輸入して大きく太らせ、日本に輸出しているものです。中国での養殖が一因となり、ヨーロッパウナギの稚魚も激減し、絶滅危惧種に指定されるまでになってしまいました。すると、今度はアメリカから、アメリカウナギのシラスウナギが日本に輸入されるようになりました。みなさんが、何気なくウナギを食べていることで、実は日本にとどまらず、世界中のウナギが、絶滅のふちに追いやられているのです──。

「国際関係学的アプローチでウナギ問題に迫る」とは？

このような問題にアプローチするのが**国際関係学**です。第1に、シラスウナギの乱獲を規制して、絶滅を避け、資源回復を目指さなければなりません。しかし、ウナギはそもそも広い海域を回遊する魚です。また、ニホンウナギ、ヨーロッパウナギ、アメリカウナギいずれも味には大差ないことがあり、すべてのウナギが食べられています。そのため、日本だけでシラスウナギ漁を規制しても意味はなく、国際的な規制が必要になります。国際的なルール、国際条約をいかに作って規制していくのかを考えるためには、**法学の知見**を利用して、国際的な視点から考えていくことが重要です。

そうしたルールが簡単に形成できるわけではありません。たとえば、ニホンウナギのみを使用している業者は、海外のシラスウナギの輸入に反対してニホンウナギのシラスウナギ漁は続けられるよう求めています。その一方で、海外のシラスウナギを輸入している業者は、シラスウナギ規制全般に反対しており、利害が対立しています。ヨーロッパの国々では規制を求める声が強いですが、ヨーロッパでもシラスウナギ漁で生計を立てている人々は規制には消極的です。そうしたシラスウナギを輸入・養殖し日本に輸出している中国や台湾でも、また別の観点からシラスウナギ漁の規制やシラスウナギの輸出入規制に消極的な立場を取りがちです。このように、いかなるルールを作るのかということをめぐっては、国境を越えてさまざまな利害関係が錯綜しており、それを調整して、ルールを作っていくためには、**政治学の知見**が必要となります。

さらに、法律を作ればそれで問題が解決できるわけではありません。法律を作って規制すれば、倒産・失業に追い込まれる人もいるでしょう。そうした人々をいかにサポートするのかという点も重要な課題です。そうした経済的苦境に立たされた人は、法律を守らず、密漁や密輸入を行うかもしれません。実際、今もシラスウナギ禁漁期の密漁は後を絶ちません。国内法の場合は、法律を破れば罰せられます。しかし、国際法においては法律違反をしても、国内法違反者と同じように罰することは困難です。世界政府が存在しないからです。そのため、ルールを守らせるためには、ルールを守った人が得をする仕組みを考えていく必要もあるでしょう。このあたりの課題に対処するためには、**経済学の知見**も重要になってきます。

世界のウナギの圧倒的大部分は日本人が消費しています。いくら栄養価が高いとはいえ、世界にはなぜあのように気持ち悪い見た目の魚を食べるのか理解できないと考える人も少なくありません。そうした考え方は、気持ち悪い魚を食べる日本人がおかしいのだから、日本人がウナギを食べるのをやめればよいといった主張に結びつきがちです。各国、各地域では食習慣はさまざまです。異なる文化的背景などに起因する軋轢や誤解を解くことは容易ではありません。しかし、各国、各地域にはそれぞれ異なる文化があるということをしっかりと理解した上でなければ、国境を越える問題をうまく解決していくことはできません。**社会学**、**文化人類学**といった学問の知見も必要とされるゆえんです。

このように、ウナギのような身近な、一見国際関係とは無関係のように見える問題ですら、世界中のさまざまな人々が関わっており、問題解決にはさまざまな角度から考えていかなければなりません。国境を越える問題について、法学や政治学、経済学、社会学などといった多様な学問の知見を総合して考えていく学問、**国際関係学**が必要とされ、その重要性が日に日に増しているのはそうした理由からなのです。

立命館大学国際関係学部であなたの「ウナギ」を見つける

立命館大学国際関係学部では、学生と教員がそれぞれの「国際関係学」に取り組んでいます。ファストフードの「ハンバーガー」をとっかかりとして地球環境問題に迫ろうとした1回生グループ、スポーツの祭典「オリンピック」が国際的な平和構築へ果たす役割を卒業論文で論じた4回生、「ワイン」から世の中の変化を見通そうと試みる教授──。一見すると「国際関係」とはあまり縁のなさそうなモノやコトでも、先の「ウナギ」と同じく、よく調べてみると「国際関係」との深い繋がりが見えてきます。

私たちの身の回りにあるモノ、日常の中で起こっているコト。考えてみれば、ますますグローバリゼーションが進展している現代において、「国際関係」と無関係のものを見つける方が難しいのかもしれません。国際関係学の知性とは、より豊かな現代社会を創りあげるための、そこで豊かに生きていくための術に他ならないのです。

本メッセージは、立命館大学国際関係学部・足立研幾教授が執筆した「ウナギから見る国際関係学」（『未来を拓く──ようこそ立命館へ』、2014年、立命館大学）を一部改変したものです。原文は立命館大学ウェブサイトで閲覧できます。

Our Profile

世界を学ぶための 3 プログラム

国際社会の理解に不可欠な**「言語、理論、地域研究」の3要素**を総合的に学ぶ国際関係学部。国際文化理解・国際協力開発・国際秩序平和の**3つのプログラム**から学びます。

1200年の都 KYOTO

1200年の都、文化と歴史の街であり、**大学の町である京都**、衣笠キャンパスで学びます。

英語基準授業 101 コマ

IR（日本語基準）専攻とGS（英語基準）専攻の2専攻制。日本語基準専攻で入学しても**70もの英語基準授業**にチャレンジできます。
（2016年度。一定の語学力が必要です）

11 カ国＋ 29 カ国・地域

11カ国から集った教員と29カ国・地域から集った262名の留学生がともに学びます。

30 カ国・地域 145 大学・機関

多様な留学先・プログラムに挑戦できます。独自の研修、ボランティア等での海外渡航を含めると、大半の学生が海外プログラムに挑戦しています。

世界で活躍する 7500 人

グローバル企業、外務省、国際機関、NGOをはじめとした各分野で約**7500名の卒業生**が活躍しています。

Majors & Programs 専攻・プログラムと研究領域

国際関係学部の専攻は、国際関係学を主として日本語で学ぶ国際関係学専攻と、
主として英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻の2専攻制。
両専攻とも、2回生から「秩序・平和」「協力・開発」「文化・理解」の
3つのプログラムに分かれて専門を深めます。

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。
キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合せがあるでしょう。
これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。

……国際関係学の研究分野や研究対象の一例　青字……国際関係学部の教員

IR専攻＝国際関係学専攻　GS専攻＝グローバル・スタディーズ専攻

IR専攻 国際秩序平和プログラム
GS専攻 Governance and Peace Program

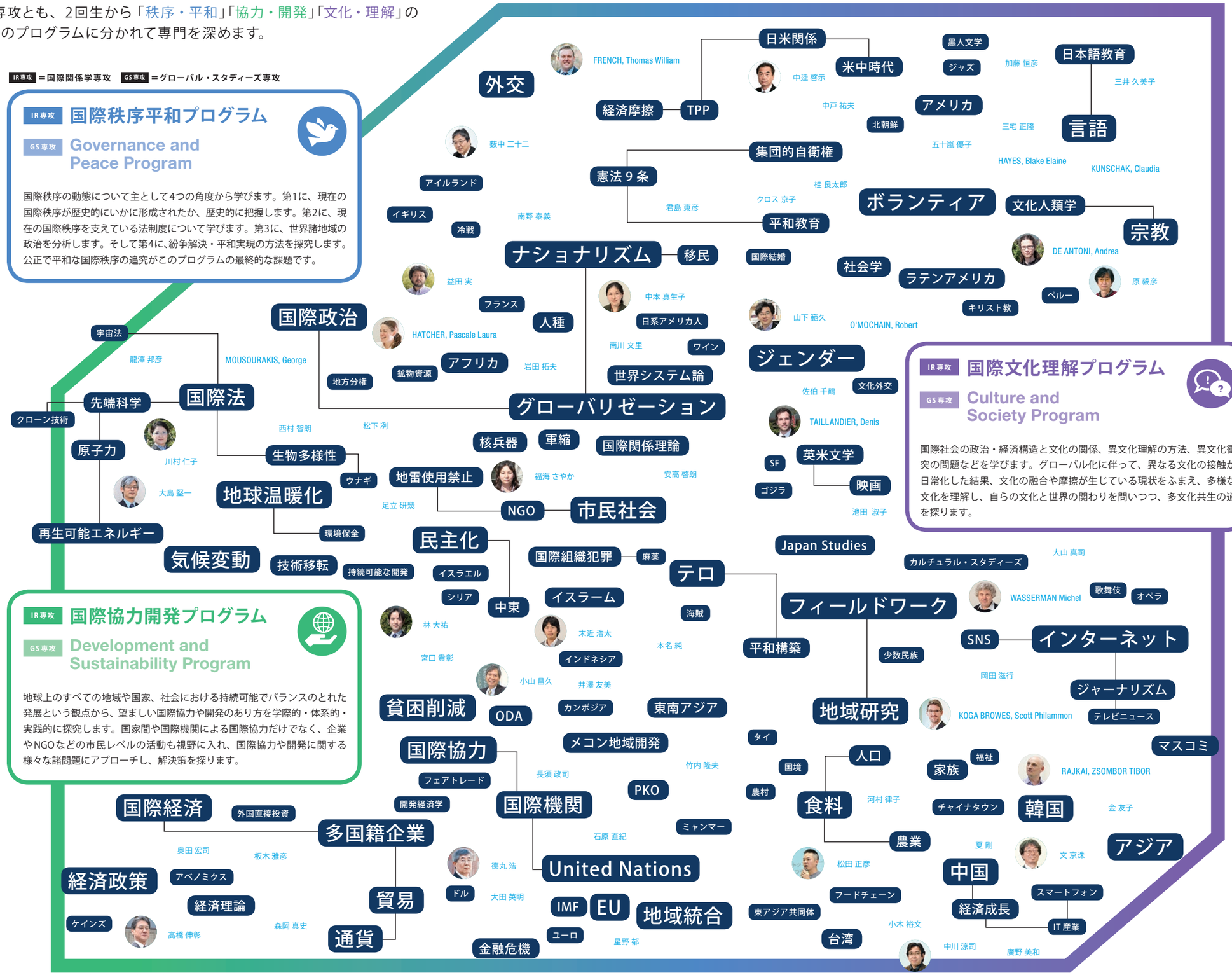
国際秩序の動態について主として4つの角度から学びます。第1に、現在の国際秩序が歴史的にいかに形成されたか、歴史的に把握します。第2に、現在の国際秩序を支えている法制度について学びます。第3に、世界諸地域の政治を分析します。そして第4に、紛争解決・平和実現の方法を探究します。公正で平和な国際秩序の追究がこのプログラムの最終的な課題です。

IR専攻 国際協力開発プログラム
GS専攻 Development and Sustainability Program

地球上のすべての地域や国家、社会における持続可能でバランスのとれた発展という観点から、望ましい国際協力や開発のあり方を学際的・体系的・実践的に探究します。国家間や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの市民レベルの活動も視野に入れ、国際協力や開発に関する様々な諸問題にアプローチし、解決策を探ります。

IR専攻 国際文化理解プログラム
GS専攻 Culture and Society Program

国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学びます。グローバル化に伴って、異なる文化の接触が日常化した結果、文化の融合や摩擦が生じている現状をふまえ、多様な文化を理解し、自らの文化と世界の関わりを問いつつ、多文化共生の道を探ります。



＊2016年度現在の所属教員です

Q&A 受験生のみなさんの疑問にお答えします

Q：立命館大学国際関係学部の特徴は何ですか？ 他大学のグローバル／国際系学部や外国語学部とは何が違うのですか？

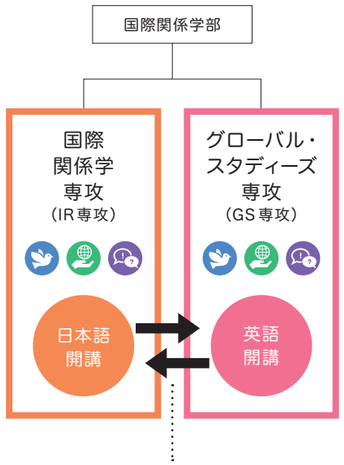
A：立命館大学国際関係学部では、豊富な留学プログラムや集中的な外国語教育を提供しています。それらに加えて、国境を越える問題を複数の学問領域を総合した「国際関係学」アプローチで分析する能力を養成します（2ページの「ウナギ」の話のとおり、現代社会では身近なモノやコトも世界と深く繋がっています）。「習得した外国語を使って伝えたいこと」を膨らませ、「国際的な舞台で成し遂げたいこと」を後押しします。

Q：グローバル・スタディーズ専攻（GS専攻）とは何ですか？

A：GS専攻は英語による科目履修だけで学士学位が取得できる専攻です。海外大学で一般的な、事前課題による予習と教室での議論を組み合わせたスタイルで行われる授業も多くあります。

国際関係学専攻（IR専攻）の所属でもGS専攻の英語による専門科目を受講できますし、その逆も可能です（クロス履修システム）。

GS専攻とIR専攻とが相互に交流することで、京都に居ながらにして、国際的な学修環境を実現しています。



クロス履修システム

両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。
各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

VOICE 1回生

生活リズム、勉強の仕方、全てが大きく変わるので慣れるのに必死でした。

時間割に選択肢がほとんどなく、固有専門科目もないのでつまらないと感じることが多々ありました。ただ、基礎科目を中心に卒業に必要な単位を詰めて勉強した結果、最終的に全ての授業で得た知識が繋がっていることに気付き、そこからは一気に勉強が楽しくなりました。

授業外でも学生ラウンジで英字新聞を少しずつ読んだり、TEDスピーチを聞いたりしました。

VOICE 2回生

固有専門科目と副専攻のフランス語が履修出来るようになり、勉強が楽しく！ でも、課題量が1回生の比ではなく、バイトを減らしました。

GSの英語授業を恐る恐るながらも取り始めました。それと同時に留学生が集う恒心館前のベンチに殆ど毎日行き、たくさんの友達ができました。これが英語力の向上に繋がったと思います。

VOICE 3回生

勉強時間は更に増えバイトを入れるのが苦しい状態です。専門科目は楽しいので苦ではありません！ 積極的にニュースを見たり、友達とディスカッションをするなどして更なる学びに繋げています。

フランス留学に向けてフランス語だけ勉強…と言うわけには行きませんがフランス人（教授、友達）に対してはフランス語で話しかけるようにしています。

My Favorite Lunch

好きな学食は鶏甘辛丼と味噌ラーメン。学校の周りでオススメなのは郵便局手前のcafe bianco! パスタが好きなのでジョリーパスタもよく行きました。

杉浦さんのVoice、フルバージョンはこちら
www.ritsumei.ac.jp/ir/special/voice/voice1.html

VOICE #1

杉浦公佳さん

［国際関係学専攻］3回生
立命館守山高等学校出身

1回生 時の時間割：杉浦さん［国際関係学専攻］の場合／春セメスター

	月	火	水	木	金
1限		英語 II	フランス語 II		情報処理
2限	社会学		国際関係学	英語 I	英語 II
3限	英語 I	経済学	平和学入門		
4限	基礎演習	政治学		法学	フランス語 II
5限					国連入門

1回生 時の時間割：中山さん［GS専攻］の場合／秋セメスター

	月	火	水	木	金
1限		Introduction to United Nations		Computer Literacy	Academic English I
2限	Academic English I		Special Lecture	Introduction to Politics	Introduction to Economics
3限		平和学入門		Academic English I	
4限	Introduction to Sociology		Academic English II	Introductory Seminar	
5限				Sub-Seminar	

2回生 時の時間割：杉浦さん［国際関係学専攻］の場合／春セメスター

	月	火	水	木	金
1限		英語・国際研究 I		英語・国際研究 II	国際法 I
2限	GSG		フランス語	Secutity Studies	
3限	欧米政治史 I			フランス語	
4限	憲法 I	（副）フランス語コミュニケーション	（副）専門フランス語 II		（副）専門フランス語 I
5限					

2回生 時の時間割：中山さん［GS専攻］の場合／春セメスター

	月	火	水	木	金
1限	International Development Cooperation		Media in World Politics	Social Development	Japanese Society
2限	GSG		フランス語	Japanese Politics	Global Environmental Issues
3限		途上国政治論	日本外交論	フランス語	Japanese Economy
4限	Cross-Cultural Communication	国際政治学			国際政治学
5限	ジェンダー論				

My Favorite Lunch

できた亭の弁当は最高だと思う。挨拶していればできた亭や、食堂のおばちゃんから暖かい声をかけられる事がある！ 髪型を変えたことに気付いてくれた！

中山さんのVoice、フルバージョンはこちら
www.ritsumei.ac.jp/ir/special/voice/voice2.html

VOICE #2

中山尚彦さん

［グローバル・スタディーズ専攻］2回生
横浜インターナショナルスクール出身

VOICE 留学について

1回生からDUDPプログラムで2年留学しようと考えていた。だが国際関係学部で学ぶうちに、留学に行く目的や学びの可能性が掴めなくて悩んだ。長過ぎない1年留学でスウェーデンに行くことにした。視野を広げ将来へのヒントを掴みたいと思ったからだ。

留学するなら、まず1回生で学部での学びを通してスキルや心構えの準備し、留学に行く目的を見つけ、その目的を果たすという進め方にした方が成長できると思う。

VOICE 自治会活動

2回生の秋学期に学部自治会で活動している友人の誘いで入った。学部の「生徒会」の様なものである。学部自治会は優秀な学生の集まりだと思っていたので、普通で平凡な私が出来ると思わなかった。

今まで参加していた部活動やサークルと全く違って、学部の何かを変えられる事にかなり達成感がある。仕事は本当に大変だが、社会人で必要になるかもしれないスキルや要領をかなり育成できると思う。

VOICE サークルのこと

いろいろなサークルに挑戦してきた。1回生から卓球サークル、ガイドサークル、軽音部、写真部、そして学部自治会に挑戦した。

立命館大学にはサークルの「新歓期」があって、その間はほとんどどこでも気軽に入れるのは助かった。お陰で色んな事に挑戦して、自分の好きな趣味がはっきり分かるようになってうれしかった。

1回生 〈言語〉と〈理論〉の基礎を育む

■ 基礎演習/Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方・研究をすすめる手法・研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習の授業では、国際関係学部教員が執筆した『プレリュード国際関係学』や『IRナビ』を教科書として用いながら、国際関係学の考え方を身につけていきます。12月に開催されるゼミナール大会では、クラス内の予選を勝ち抜いた代表チームが研究成果を発表し、優勝を競い合います。このように基礎演習と基礎科目の履修により、1回生は国際関係学「理論」の基礎を磨きます。

また、基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生や大学院生のチューターが生活・学修の両面をサポートします。

1回生の英語能力は、クラス分けされた英語/Academic Englishの授業を通じて飛躍的に向上し、留学に必要なレベルまで高められます。第2外国語（フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、日本語（留学生））も含め、語学は国際関係学部で学ぶための重要な基盤です。「本当に大変だったけれど、力がついた！」経験が、4年間の学びを支えます。

＊『IRナビ』は国際関係学部ウェブサイトでも公開されています。是非アクセスしてみてください！

2回生 専門的分野への第一歩と海外への挑戦

■ グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）

2回生の一大イベントです。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション力やリーダーシップを育む機会でもあります。

■ IR/GSセミナー

3つのプログラム（4ページ参照）から選んだ分野をより専門的に学び始めます。専門領域に基づいて選ぶIR/GSセミナーでは、各分野の古典/基本的文献の講読に挑戦します。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。

2回生は挑戦のときでもあります。多くの学生が交換留学等の海外プログラムや、国際ボランティア等に参加しています。

VOICE オリター活動

2回生ではじめたオリター活動では、新入生の学習や生活を支援すべく企画を行ってきました。3回生では、オリター団の団長として前年の反省を活かしながら、主にIR専攻とGS専攻、日本人と留学生の交流促進を団の課題として取り組みました。4回生になり、全学自治会初年次担当として大学全体におけるオリターの役割を考え、他団体との協力、学部を超えた交流などに取り組んでいます。

VOICE オリターを通じて

文化や言葉の違いで多くの苦労をしました。でも、これらの壁に課外活動でぶつかったからこそ英語を学ぶ意欲や外国への興味がうまれました。

オリター仲間とはもめることも多く、時には泣く人も出るぐらいに喧嘩することもありました。ただ半年間、共に活動した仲間といまも遊びに行ったりできることはこの大学にきて良かったと思うことのひとつです。

VOICE サークル活動

1回生の頃からバスケットボールサークルに所属しています。サークル活動は高校までの部活とは違い、監督やコーチといった絶対的存在がいないため、起用方法や方針など難しいところはありますが、楽しくやっています。大学に入ると、あまり運動をする機会がなくなるため、運動不足の解消としても役に立っています。

My Favorite Lunch

唐揚げおろしポン酢、唐揚げ麻婆丼、ロースカツカレーなど

高木さんのVoice、フルバージョンはこちら
www.ritsumei.ac.jp/ir/special/voice/voice3.html

VOICE #3

髙木皓之さん

［国際関係学専攻］4回生
大阪府立豊中高等学校出身

3回生 時の時間割：ZHANさん［GS専攻］の場合／春セメスター

	月	火	水	木
1限		International Trade and Investment		
2限	International Migration			Japanese Politics
3限	Race and Ethnicity in the Modern World		Introduction to Anthropology	Advance Topics in International Relations
4限	Historical Sociology of Globalization			Advanced Seminar
5限			Foreign Relations of Japan	

3回生 時の時間割：髙木さん［国際関係学専攻］の場合／秋セメスター

	火	水	木	金
1限		国際法 IV	国際政治学	英語 IV
2限	英語 IV		北アメリカ研究 II	日欧文化関係史
3限	特殊講義	特殊講義		
4限			専門演習	国際政治学
5限				

3回生 時の時間割：ZHANさん［GS専攻］の場合／秋セメスター

	月	火	木	金
1限				
2限			Introduction to Politics	Japanese Society
3限	Special Lecture (International Trade)	Global Sociology		Global Studies Research
4限	Japan-US Relations		Advanced Seminar	
5限	Contemporary China	Introduction to Natural Science		

4回生 時の時間割：髙木さん［国際関係学専攻］の場合／春セメスター

	月	火	水	木	金
1限	地域研究論 I		ヨーロッパ研究 I		
2限	社会言語学	環境経済論 II	安全保障論		
3限	欧米政治史 I	国際ジャーナリズム論	国際人口移動論		特殊講義（固定専門関連科目）
4限		南アジア研究 I		専門演習	
5限	ジェンダー論	スポーツと現代社会	東アジア研究 I		日本文化・社会論

My Favorite Lunch

夏は学食の唐揚げ冷麺をよく注文します。外のテントで売っている明太子のパンもよく食べます。外国人留学生なので食堂の地域フェアも楽しみのひとつです。

ZHANさんのVoice、フルバージョンはこちら
www.ritsumei.ac.jp/ir/special/voice/voice4.html

VOICE 勉強について

1回生はほぼ入門の授業でしたが、一番時間のかかる授業は英語のライティングでした。英語論文の書き方など基礎を学びました。

2回生になると、国際関係学専攻の学生と一緒の授業も増えました。GSGでは、国際交渉などを通じて、国際関係をより深く理解でき楽しかったです。

3回生の今、国際政治経済学に関する卒論を準備しています。大学にも慣れ、様々な活動にも参加できるようになりました。

VOICE サークルについて

TISAという団体で外国人留学生のサポートをしています。きっかけは入学直後の不安な時期にTISAのオリエンテーションに参加した経験から他の留学生に役に立ちたいと思ったからです。

サークルでは日本人学生か日本語基準で入った留学生に囲まれているので、日本語が上達しました。また、イベントを通じて国際交流や日本文化をより理解することができました。

VOICE 京都の暮らし

中国の杭州から京都に来ました。そして、京都の魅力に圧倒されました。

趣味の写真で季節を表現することが好きです。春の桜そして藤の花、梅雨のあじさい、秋の紅葉、そして冬の梅と雪、季節折々の京都の美が感じられます。週末にお寺や神社巡りをして、旅行者ではなかなか見つけられないスポットを発見するのも楽しいです。

VOICE #4

ZHAN Ranyanさん

［グローバル・スタディーズ専攻］3回生
杭州外国语学校出身

3回生 学びの深化：実践と発信

■ 専門演習/Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業論文に向けて準備をする場でもあります。ゼミの仲間とグループ研究に取り組み、ゼミ対抗プレゼンテーション大会「オープンゼミナール」でその成果を競い合います。予選を勝ち抜いたグループは、企業の人事担当者等の前で報告を行います。

ビジネスや国際公務、メディアのプロフェッショナル・ワークショップでは、進みたい分野の最前線で活躍する講師からどのような力をつけるべきか、直に学びます。夏休みや春休みには企業や国際協力機関、新聞社等でインターンシップに取り組む学生もいます。社会の現場で学んだことを実践し、その経験をキャリア選択に活かします。

4回生 学びの集大成とキャリア選択

■ 卒業論文の執筆

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業論文を仕上げます。

4年間の学びは社会人として成長して行くための基盤になります。卒論の執筆を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

■ キャリア選択

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学キャリアオフィスの専門スタッフがひとりひとりの学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも、支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。

海外留学プログラム＋グローバルエデュケーション

国際関係学部には、多様な留学プログラムと、留学を充実させる学部独自の仕組みがあります。

日常会話に留まらない
アカデミックな英語

地域：アメリカ、アジア、ヨーロッパなど
期間：2週間～2年間

（ハイレベルな語学教育 ＋ 英語による専門科目の履修）× 多様な留学プログラム ＝ 充実した留学体験

留学先に近い環境で留学前の準備～帰国後の英語力維持

海外留学プログラム

留学の目的や意義は、一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されており、世界30カ国・地域、145大学・機関から留学先を選択できます（2016年2月末現在）。2014年度には178名の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航する学生も多数います。

グローバルエデュケーション

■ 英語教育

「英語/Academic English」、「英語国際研究」（IR専攻のみ）といった科目においてコミュニケーションだけでなくアカデミックに読み、表現する能力を育成します。勉強は大変ですが、“Reading、Writing能力を共に伸ばせ、アカデミックな論文の書き方について勉強させていただいたことは、留学中にとても活きました"といった声が寄せられています。

■ 英語による専門科目の開講

グローバル・スタディーズ専攻の科目はすべて英語で開講されています。海外の大学と同様の高いレベルの専門的な授業を留学生とともに英語で受講することが出来ます。多くの学生が留学前の準備や帰国後に授業を履修し、専門的な英語力や学修スタイルを磨きます。海外留学しなくても、海外の大学と同様に学ぶことが出来るのも国際関係学部の魅力です。

voice

2年間の長期留学で、2つの学位とかけがいのない体験を手に入れました

濱邉 ふう さん　DUDP（学部共同学位プログラム）でアメリカン大学に留学：2年間

DUDPを希望したのは、アメリカン大学と立命館大学の二つの学位を取得できることはもちろん、2年間という長期にわたって留学を経験できることが大きな理由でした。最初の1年間は、語学力をしっかり鍛えるとともに、大学での学びに集中。2年目には学んだことを生かしてさまざまな活動にも挑戦し、多様な経験を積むことができました。

アメリカでは平和紛争解決学について学びました。授業を受けるだけでなく、異文化間の偏見や紛争をなくすことを目指す学生団体“Peace of East Asia in Creative Engagement"を設立。中国・韓国・アメリカの学生を交えて歴史問題や領土問題などについて忌憚なく議論する企画などを実施しました。またシンクタンクでインターンシップにも参加。アメリカの政治を垣間見る機会にも恵まれました。異国の地で、言葉も価値観も異なる学生たちをまとめ、団体を率いる中で、国境を越えて多様な人と協力する力、自分の意見や情報を相手に届ける力が身につきました。語学力を磨き、異文化への理解を深めるだけでなく、これからの人生の指針となるすばらしい学びと経験を得たことが、何よりの収穫でした。

海外留学プログラム

＊プログラム・留学先等、データはすべて2016年度のものです。

アドバンスト型
［上級］
ADVANCED

正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで、自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラム。現地の正規学生と同様に授業を受け、単位を取得します。多くの国際関係学部生が、このアドバンスト型留学に参加しています。

代表的な留学・海外教育プログラム	留学期間	留学先
国際PBLによるイノベータ育成プログラム	5カ月間	インドネシア・タイ
DUDP（学部共同学位プログラム）	2年間	アメリカなど
交換留学	1年間	世界28カ国・地域、128大学
ラトガース大学、オクラホマ大学、ミネソタ大学（アメリカ）、ロンドン大学（SOAS、ロイヤルハロウェイ）（イギリス）、コペンハーゲン大学（デンマーク）、ヘルシンキ大学（フィンランド）、ベルゲン大学（ノルウェー）、パリ第7大学（フランス）、南京大学、上海交通大学（中国）、国立シンガポール大学、マレーシア科学大学、クィーンズランド大学（オーストラリア）、モンテレイ工科大学（メキシコ）　など		

Voice　国際支援に必要なビジネス系の授業を受講する他、アメリカの人種差別の実態についても学びを深めました。［交換留学：アメリカ／ウェスタンミシガン大学：1年間］

モチベーション向上型
［中級］
MOTIVATION

交換留学に準ずるレベルで、語学力を高めながら外国語による講義をうけるプログラムです。特定のテーマについての講義やフィールドワークなどを行います。短期間から1年間まで幅広くプログラムが実施されます。

代表的な留学・海外教育プログラム	留学期間	留学先
海外スタディ	2～4週間	インドネシア・アメリカ他
立命館・UBCジョイントプログラム	8カ月間	カナダ
マコーリー大学「日豪関係」プログラム	7週間	オーストラリア
カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム	6カ月間	アメリカ

Voice　自分から話しかけ、イベントに参加し、現地の人とできるだけ接して語学力を磨くことで、短くも濃密な時間を過ごすことができました。［オーストラリア／マコーリー大学：4カ月］

Voice　ベネズエラ、メキシコ、サウジアラビア、中国、韓国から来た、様々な年齢の人々と授業でペアワークをすることが多く、お互いのことを知るきっかけとなりました。［カナダ／アルバータ大学：8カ月］

Voice　言葉はつたなくても積極的に話せば心を通い合わせることができる。2カ月間の留学でそう実感したことが、自信になりました。［オーストラリア／マコーリー大学：2カ月］

イニシエーション型
［初級］
INITIATION

語学力の向上と異文化体験を主要な目的としたプログラムです。海外体験があまりない人や語学レベルが初級者向けの異文化体験・語学習得を中心とした短期研修です。

代表的な留学・海外教育プログラム	留学期間	留学先
立命館・昭和ボストン「文化・社会調査」プログラム	4週間	アメリカ
異文化理解セミナー	4週間	16コース
アメリカ、ドイツ、フランス、スペイン、メキシコ、中国・韓国等		

Voice　夏休みを利用し、短期留学を体験。現地の政治学の授業で、「留学生も国際関係に影響を与える“ソフトパワー”だという自覚を持って」と言われた言葉が心に残っています。［アメリカ／立命館・昭和ボストンプログラム：1カ月］

Voice　夏休みの間で留学できるのが、短期留学のメリットかな。正課の授業への影響を気にしなくていい。

Q：あまり英語に自信がなく、海外渡航の経験もありません。留学プログラムに参加できますか？

A： 海外留学プログラムは、十分なサポートを受けながら参加できる短期間の「イニシエーション型」から、一定の英語力を前提に正規学生として留学する「アドバンスト型」まで、幅広く提供されています。留学前の英語力向上をサポートする取り組みも数多く用意されています。入学後にしっかりと準備することで、あなたに合った海外留学プログラムがきっと見つかると思います。また、留学準備は国際教育センターが丁寧にサポート。留学を経験した学生が留学生アドバイザーとして留学相談に対応するほか、危機管理等についても事前に情報提供を行います。

Q：留学費用について心配しています。奨学金等はあるのでしょうか？

A： 大学が実施するプログラムには、プログラムの費用や期間等に応じて受給できる「海外プログラム参加奨励奨学金」があります。たとえば、1学年間の交換留学プログラムでは60万円（上限）が給付され、皆さんの熱意をサポートします。

＊2016年度実績

Q：大学のプログラムにとらわれずに国際的に学びたい

A： 大学が提供するプログラム以外で、長期休暇や休学＊を利用して海外に渡航する学生は多数います。たとえば、ある学生は春休みを利用して一人でケニアへ渡航し、HIV感染者やその家族を支援する活動を自ら立ち上げました。また、自分の目的により適合した語学習得プログラムを見つけてそれに参加する学生もいます。国際関係学部は、このような学生の自主的な取り組みを応援しています。

＊休学は、その理由をもとに審査・許可を受ける必要があります。